

税についての作文

名寄間税会会長賞など5名が入賞

国税庁と全国納税貯蓄組合連合会が主催する、中学生の「税についての作文」について下川町も共催し募集を行いました。これは、将来を担う中学生の皆さんが身近に感じた税に関する事、学校で学んだ税に関する事、テレビや新聞などで知った税の話などを題材とした作文を書くことで、税についての関心を持ち、正しい理解を深めていただくことを趣旨として行われているものです。

本町からは、下川中学校3年生21人の応募があり、次の優秀作6作を選考し、表彰及び記念品の贈呈を行いました。

名寄間税会会長賞

萩原 はるか さん

下川町優秀賞

大池 ころろ さん

折原 さくら さん

平田 健さん

藤原 悠人さん

藤原 悠人さん



また、租税教育推進校等表彰があり、下川中学校が国税庁長官感謝状を受賞し、名寄税務署野口署長から越湖校長に授与されました。

名寄間税会会長賞

「税金がなかったら」



下川中学校三年

萩原 はるか

私は今、北海道の寮で暮らしている。お小遣いは月一万円。お菓子や飲み物、その他必要なものを買うために使う。本来百円のものでも、消費税が必ずかかるため、八〜十円高くなってしまふ。もし消費税がなければ、もう少し買えるものが増えるのに、とよく思う。そこで、税金がないとどんなことが起きるのか、調べてみた。

まず、身近だと、私たち学生に勉強を教える先生がいなくなる、町中がゴミだらけになる、犯罪が増え、国の治安が悪くなるなどだ。学校の先生やごみ収集作業員（公務員）の給料は、国民の税金から支払われているため、働く人がいなくなってしまう。警察官もその中に入る。

次に、自分の家で火事が起きた時に火を消すお金などを払わなければいけないため、自身が助かっても、多額の請求をされることになる。

また、十三年前に起きた東日本大震災で、多くの建物や道路が壊れた。そこから、十三年間、二千二十四年現在も復興に向けて再築している。その再築のためのお金も、被害にあった人への支援のお金も、税金が多くかかわっていると思うと、頭が上がらない存在だと感じた。

最近、少子高齢化で増えてきている、老人の方。その人たちを支援する年金や介護費も税金だと分かっていた。少子高齢化は長年続いている問題なので今後も税金が多くかかわるのではないかと考える。

また、大体どの場所にもある、公共施設（公園など）や、そのなかで使われている公共サービス（トイレ、自動販売機、ネットなど）を提供するためにも、税金が必ず必要だと知り、税金は偉大だと感じた。

調べていると情報がたくさん出てくるので税金の使われ方について長い文になっちゃったが、他にもたくさんの方々の使われているので、やっぱり税金は必要なのだと実感した。商品や消費についてくる無駄なお金ではなく、ちゃんとした意味がある大事なものだと思ふ。今後町中で、税金が使われていそうなどところや、他の税金の使われ方も、調べていこうと思ふ。また最近では、「増税」や「たばこ税」なんかの言葉も、たまに聞くのでそれについても調べてみようと思ふ。